



多様な樹種の優良種苗生産技術の開発に向けて

遺伝資源部長 生方 正俊

昭和60年(1985年)に農林水産省ジーンバンク事業の林木遺伝資源部門としてスタートした林木ジーンバンク事業は、育種素材の確保や絶滅危惧種の保全などを目標として進めてきましたが、事業発足後30年が経過し、社会のニーズにより的確に応えるため、事業の方向性に関する検討を行い、平成26年に「林木ジーンバンク事業の方針」を取りまとめ公表しました。この中で、有用樹種の新需要の創出に貢献することを事業の重点課題に位置づけ、これ以降の事業を進めています。この方針の詳細については、森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部のホームページ(<http://www.ffpri.affrc.go.jp/ftbc/iden/index.html>)に掲載しています。

近年、コウヨウザンやセンダンといった早生樹への関心が高まり、林業関係者や関係機関から「実際に造林したいのだが、種子や苗木はどこで入手できるのか」、「〇〇地域では、造林が可能か」といった問い合わせが多く寄せられるようになりました。

このような情勢を踏まえ、林木育種センターでは、農林水産省の農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業として、平成27年度から早生樹として期待されるコウヨウザンについて、鹿児島大学農学部、広島県立総合技術研究所林

業技術センター及び中国木材株式会社と連携して、成長、材質、生育等の各種特性の評価、優良系統の選定等を行ってきました。この中で、実用化を見据えたコウヨウザンの苗木生産に関する技術開発にも着手しています。また、国立研究開発法人森林研究・整備機構の第4期中長期計画期間(平成28～32年度)においては、コウヨウザンやキハダなどの新需要が期待できる有用樹種について、優良系統の選抜が可能となる母集団の作成を行うため、生育地からの遺伝資源の収集、保存、評価を進めています。さらに、平成29年度からは、一般財団法人日本森林林業振興会の森林林業振興助成事業として、全天連(全国天然木化粧合単板工業組合連合会)、九州大学及び大分県と連携し、チャンチンとユリノキを対象に、国産早生広葉樹の優良種苗の生産技術の開発を進めています。

以上のように、林木育種センターでは、様々な樹種について優良種苗の生産に必要な技術開発を精力的に進めています。このような技術開発が、スギ、ヒノキ、カラマツ等の主要樹種に加えて、新たな造林用樹種の選択肢を増やすことにつながれば、森林所有者の造林意欲の向上による森林整備の推進、ひいては中山間地域の活性化や林業の成長産業化に貢献できると考えています。

【紙面紹介】

平成29年度に開発した優良品種	2
マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業 —より強い抵抗性マツの開発—	4
薬用樹木「キハダ」について	5

海外育種事情調査 (ニュージーランド(NZ)及びオーストラリア(AU))	6
国際学会 Plant & Animal Genome XXVI に参加して	7
林木育種事業60周年記念シンポジウムの開催	8



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター

Forest Tree Breeding Center, Forestry and Forest Products Research Institute